

BCG ワクチン（対象年齢：生後1年に至るまで） （標準：生後5月に達した時から生後8月に達するまで）

BCGは、牛型結核菌を弱めた生ワクチンで、結核菌による感染を防ぐために行います。以前は生後4歳未満の乳幼児を対象にツベルクリン反応検査を行い、その結果が陰性の場合にのみBCGを接種していました。しかし結核予防法が改正され、平成17年4月からツベルクリン反応検査を行わずに、直接BCGを接種するようになりました。

病気の説明

結核は気道から侵入した結核菌が肺に感染し、発症する病気です。発熱としつこい咳が特徴で、重くなると吐血したり呼吸が出来なくなったりします。とくに結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことが出来ないため、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があり、かかると重症化しやすい病気ですので、予防接種を受けて結核に対する免疫をつけることが大切です。

接種時期と回数

接種方法は、管針法といってスタンプ方式で上腕の2か所に押しつけて接種します。接種したところは触れないようにし、日陰で10分ほど乾燥させてください。

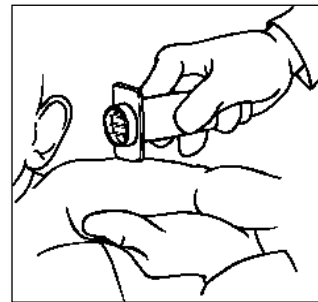
接種年齢及び回数は、生後1歳までに1回ですが、標準的接種期間は生後5月齢以上8月齢未満です。

1歳の誕生日の前日まで



1回

標準：生後5月に達した時から8月に達するまで



副反応と注意点

接種後10日ごろに接種局所に赤いポツポツが出来、一部に小さいウミが出来ることがあります。この反応は、接種後4週間ごろに最も強くなりますが、その後かさぶたが出来て接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、免疫がついた証拠ですので、バンソウコウなどを貼らずにそのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているときはかかりつけ医に相談してください。

副反応として、接種した側のワキの下のリンパ節が腫れることがまれにあります。そのまま様子を見てかまいませんが、ただれたり、大きく腫れたり、化膿してウミが出るなどしたときは、かかりつけ医に相談しましょう。

もし接種後10日以内に、コッホ現象（接種部位の局所反応が早く、また強く出る）がみられた場合は、接種前に結核菌に感染している可能性がありますので、速やかにかかりつけ医を受診してください。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。